

KFCと尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモ通信

2016年7月



【発行】河北新報社及センター
【協力】尚絅学院大 河北仙巖
【エリア】名取市内
【部数】11,000部
【電話】022(288)2991



写真⑤打合せをする生徒、企画への熱い思いを語ってくれた。手前は青田記者。写真⑥プロジェクトメンバー



案内して頂いた高橋さん

宮城農高

被災地観光地化プロジェクト

地元食材で地域笑顔に

東日本大震災で被災した名取市の復興のシンボル「海苔」。地元の食材として、観光客や仙台空港を利用する人々に上陸から笑顔を届ける目的で、被災地観光地化プロジェクトの一環で、宮城農業高校の農業経営者たちが取り組んでいます。

●復興のシンボルを育てる生徒さんが取り組んでいます。

その中の一人、花井伸一さん(左)は、「海苔」という名前で、宮城農業高校の農業経営者たちが取り組んでいます。花井さんは、被災地の特徴として、「おなじみの海苔がある」ということを語ります。

●メンバーや、青田記者(右)と一緒に開発した「おお津(おおつ)パンバー」を紹介させて大歓声。これを始めたきっかけは、やや異形の地上給湯器を使つた「海苔マーク」が販売され始めました。

「種類の海苔、赤い花(高瀬川)、白い花(信州)、さくらんぼ(福島)を組み合せて大きめのパン」を作られた「農業フレッシュユーロ」が販売されました。最初から元気な掛け声が響きました。

「企業の方との共同開発はとても勉強になりました。大きなときもあるが商品開発はやりがいがあります。将来は、想定した商品を形にしたり、自分の考えが反映される時はやって楽しめばいい。将来は農業高校で学んだことを生かして、自分で企画をしてしまった」と話しました。

神社の近くで海苔屋さんを行っていたという高橋茂信さんは、「基礎とボルト

下増田神社下

津波に耐えた

東日本大震災で被災した名取市北端地区には、甚大な津波被害に耐え、流れることなく残った下増田神社は北端地区のシンボルの一つです。

下増田神社は、震災前よりも参拝客が増え、毎年(2015年~2016年)に創設(そくし)されたと伝えられる下増田神社は

津波に耐えた。震災の記憶を後世に残すためにも、語り継がなければなりません」と真剣な睡顔で語りました。(同部吉生)

が固定されていない神社や「なんばれ」という言葉に何度も流されず残つたこと

は奇跡としか言いようがない

と語ります。高橋さんは、「震災前よりも参拝客が増え、毎年(2015年~2016年)に創設(そくし)されたと伝えられる下増田神社は、震災の記憶を後世に残すためにも、語り継がなければなりません」と真剣な睡顔で語りました。(同部吉生)

津波に耐えた。震災の記憶を後世に残すためにも、語り継がなければなりません」と真剣な睡顔で語りました。(同部吉生)

(青田汐里)

ふ(73)

は「基礎とボルト

ふ(73)

は「基礎とボルト



よしき・ゆき
1985年1月30日生まれ
北海道札幌市出身。
趣味はスポーツ・観劇。0歳と2歳の姉妹の母です。



